

日野市議会議員

白井 なおこ

しらい

レポート Vol.9

2021年1月5日発行

発行 行/日野・生活者ネットワーク
発行責任者/出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央白石ビル 4F
TEL.042-514-8695 FAX.042-514-8697
E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



議会一般質問

笑顔で子育てができるまちに

「児童虐待・産後うつをなくしていくために」

右肩あがりが増え続ける児童虐待や産後うつ、子どもの貧困など、子ども・子育てを取り巻く環境は厳しさを増しています。
(仮称) 子ども包括支援センターを軸に、子どもを真ん中にしたまちづくりを、地域と連携してすすめていくよう、質問・提案しました。

(仮称) 子ども包括支援センターに求めるもの

妊娠期からの相談や支援の体制があっても、就学後にはそれが途切れがちなことから、国の法改正を基に、日野市は2021年度より母子保健部門と子ども家庭支援センターを一体化させます。

2022年度中には、市役所近隣に建てる3階建ての建物に子ども部全体を移転、SSW※が常駐することで学校との連携もすすみ、子ども、保護者へさらに細やかな支援や、気軽に何度でも相談できる体制が整います。

子育て広場や会議室等も併設され、市民の利便性が高まることが期待されます。

ただ、このような構想が身近な地域の子育て関係者に十分に伝わっていないのは残念に感じます。現場の声を聞き、まち全体で包括的な支援体制を作り上げていく視点を求めました。

「孤育て」にならないように

コロナ禍において、産後うつの増加が報じられています。私もかつて苦しんだ一人です。特に転入者は孤立しがちです。地域の相互援助システムであるファミリースポーツのよさを実感してもらうためにも、お試しクーポンの配布を提案しました。また、孤育てでストレスを感じるときに、利用しやすい一時保育の拡充を要望しました。

離婚をめぐる子どもへの影響

離婚後の養育費不払いは子どもの貧困につながるものが多く、また親権や面会交流をめぐる

は、子どもの声が置き去りにされがちで、苦しむ子どももいます。

また、離婚成立前の「実質ひとり親」は、ひとり親対象の支援も受けられず苦境にあります。

このような見えにくい課題に對しても、個別に寄り添う支援を求めました。

市長からは、産後うつや虐待を未然に防ぐのが今回の構想であり、行政の縦割りの狭間に陥ることなく、子育て支援を行っていきたいと答弁がありました。

笑顔で子育てができるまちを、共につくってまいります！

※SSW(スクールソーシャルワーカー)：児童・生徒が抱える問題の解決を図る専門職

12月議会トピックス

●八ヶ岳高原大成荘が閉鎖

昭和40年より市民の林間宿泊施設として親しまれてきた大成荘は、近年の利用客の減少、また維持経費、更新経費の捻出が困難であることから、今年度末をもって閉鎖となります。



小学校移動教室をはじめとする団体利用や、市民の皆さまには、引き続き近隣にある他市の施設をご利用いただけるよう、調整中とのことです。

●補正予算より

「避難所の混雑状況がわかる災害対応ツール開発」、「職員のテレワーク用端末購入」、「来庁せずとも取り出せる地図情報のオンライン化」、「道路等への要望を写真付きで投稿できるシステム導入」、「LINE情報発信強化」など日野市でもデジタル化が急速に進みます。

市民、職員の双方にとって利便性が高まる点は大いに歓迎ですが、利用できない方への配慮も求めました。(全て賛成)

☆浅川清流環境組合議会や議会改革等特別委員会、活動報告等詳細は白井なおこHPで!

10/29 第2回臨時会報告

●学習用端末購入について

小2から中3までの全児童・生徒を対象にタブレット型端末を購入するための契約案件です。

特に二丁の高い特別支援学級・教室の教員や保護者には、いち早い情報提供および研修を進めるよう求めました。(賛成)

●元副市長に関する調査の報告

一連の不正を受け、市は組織の自浄作用促進を目的に内部通報に関する条例を策定します。報告を受ける管理者も通報を受ける場合もあることも視野に、また通報者の徹底した保護を求めました。

毎議会終了後、なおこのおしゃべりカフェを開催しています。詳細はホームページをご覧ください。